令和８年１０月８日

古市小学校　３，４，５，６年　保護者　様

丹波篠山市立古市小学校
校長　中澤　昌樹

令和８年度　丹波篠山市立古市小学校「学習・生活に関する学力向上プラン」

今年度、４月に実施した５年生対象の「丹波篠山市学力状況調査」、６年生対象の「全国学力・学習状況調査」、５月に実施した３，４，５，６年生対象の「丹波篠山市生活習慣状況調査」についての結果がまとまりましたのでお知らせします。この調査の目的は、「児童の学習状況や生活状況を把握・分析し、授業改善や指導に生かす」というものです。

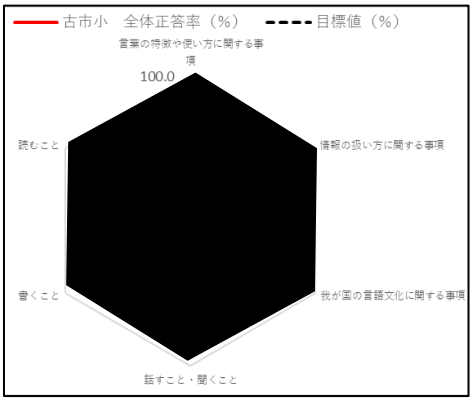
この調査結果は児童の学力のすべてを表したものとはいえませんが、学校全体で取り組んできたこれまでの学習の成果と課題の一部を見ることができると考えています。保護者の皆様にお知らせし、一緒になって取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

１　教科に関する調査

（１）丹波篠山市学力状況調査　５年生

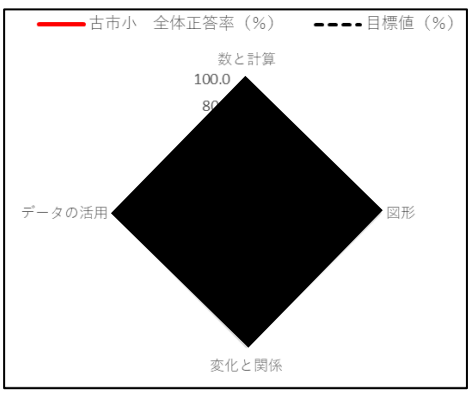
※目標値：学習指導要領に示された内容について、項目ごとに正答できることを期待した児童の割合を示します。この目標値を基に学力の定着度を見ています。

【国語科】



漢字を正しく読んだり、書いたりすることに成果がみられます。また、漢字辞典の使い方についてよく理解していました。一方、叙述をもとに内容を捉えたり、大切な語句を見つけて要約したりすることや、文章の構成を意識して自分の考えと理由を明確にして文章に書くことに課題があります。語彙を増やすことや、話の中心となることは何かを考えて読んだり表現したりする力を伸ばすことが必要です。文字数を制限して文章を書かせる練習や、音読や読書の習慣をつけることを通して、語彙を増やし、表現する力を伸ばしていきます。また、読んだ本の内容のキーワードを抜き出し、要旨を捉えてまとめるような活動を取り入れます。

【算数科】

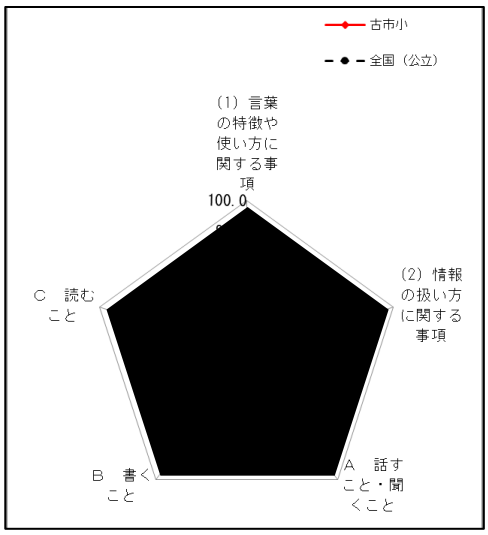


小数のたし算の計算や大きな数、概数についての理解に一定の成果が見られます。小数のかけ算やわり算の計算や、割合における基準量と比較量の関係を読み取ったり、伴って変わる二つの数量の関係を整理したりすることに課題がみられます。自分の力で基礎的な問題に繰り返し取り組む時間を設け、基礎学力の向上を目指します。また、毎年取り組んでいる「計算力チェックテスト」から分析したことも合わせて既習内容の定着を図ります。割合や複数資料を読み取る問題では、自分で図をかくことを習慣づけ、情報を整理して題意を読み取る力を伸ばしていきます。

（２）全国学力調査　６年生

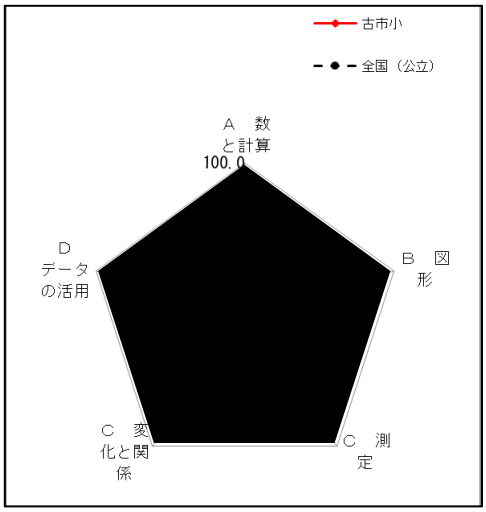
※グラフは全国の公立小学校と古市小学校の平均正答率をそれぞれ（%）で表しています。

【国語科】



文章全体の特徴や展開を捉えること、情報と情報の関係について、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つけ、内容を理解することに成果が見られます。一方で読んで理解したことをもとに自分の考えをまとめたり、考えが伝わるように表現を工夫したりすることに課題が見られます。自分の思いや伝えたいことを、限られた文字数の中で表現する力を伸ばすことが必要です。語彙力を増やすために読書や音読に取り組みます。まず考えを持たせることを意識させ、ノートに書かせたり、選択させたりする場面をつくります。考えを伝え合う場面を意図的に設定し、似た意見でも「同じです」で済ますのではなく、自分自身の言葉を使って表現する機会を大切にしていきます。

【算数科】



立方体の体積の計算や、四捨五入をして概数で数を表すことなど計算の技能に成果が見られます。また、単位量当たりの大きさについて、問題と式を関連づけて理解することができています。一方で体積の意味について理解したり、複数の情報から必要な情報を抜き出して思考したりすることに課題が見られます。また、示された条件をもとに、考えと理由を記述することに課題が見られます。普段の授業の中で順を追って丁寧に問題に解いていくだけではなく、自分で最後まで問題を解いてみる経験が必要です。また、算数の問題にも文章を読み解く力が求められています。問題で何を問われているのか、必要な情報は何かを見抜く力を他教科での資料の読み取りや話し合い活動の中で高めていきます。算数の授業の中では、短い言葉でも自分の言葉で説明する時間をつくり、考えを図式化させたり、言語化させたりする場面を意図的につくり習慣化させていきます。

２　学習や生活習慣に関する調査　生活習慣状況調査（3,4,5,6 年生）、学習状況調査（6 年生）

〇成功体験と自信

努力が実を結んで嬉しかったという成功体験は、多くの学年で全国平均と同等かそれ以上と豊富です。一方で、高学年を中心に自分の良さや成長を実感しにくく、自信に繋がりにくい傾向があります。今後も日々の学習や行事などで、デジタルノートやワークシートを使用した振り返りを通し、小さな成功を自信に変え、自分の良さに気づき自尊感情を育む指導を進めます。

○規範意識

地域での挨拶や公共の場でのマナーは、多くの学年で肯定的であり全国平均を大きく上回っています。一方で、学校や学級のルールを守ることへの意識については少し課題が見られます。今後はクラスでの話し合いや日々の振り返りを通じ、主体的にルールを意識して行動できるよう取り組んでいきます。また、縦割り班活動を通し、異学年の集団の中でルールを守ってゲームを楽しむような活動を設定していきます。

○社会参画

地域の行事やボランティアへは積極的に参加できており、地域との良好なつながりが見られます。一方で、身近に困っている人への手助けや、社会の課題に対する共感・実感の項目で全国より低い傾向があります。授業などで協同的な活動を通して、共感的な人間関係を育成し、視野を広げ、身近な課題と自分を関連付け、思いやりを行動に移す勇気を育んでいきます。また、地域とのつながりを大切にした学習を取り入れていきます。

○学級の絆

互いの良さを認め合い、助け合ったり励まし合ったりする雰囲気があると感じている児童が非常に多く、多くの児童にとって学級が安心できる場となっていると考えられます。全員がそのように感じられるように、職員が組織的に一人ひとりに寄り添い、互いの良さを言葉で伝え合ったり、失敗しても励まし合ったりできる温かい学級づくりを継続します。

○生活習慣

朝食習慣は概ね定着していますが、夜遅い就寝や、前日の持ち物確認不足による忘れ物といった課題が見られます。全国平均と比べてメディアやゲームの利用時間が全体的に長い傾向があることも関連していると思われます。学校では情報機器の適切な使い方や生活リズムの大切さを指導し、ご家庭とも連携して習慣の改善を図っていきます。また、「ふるいちインターネット利用宣言」を子どもたちと毎年確認し、利用の仕方の見直しを進めます。

○学習習慣

自主的な予習・復習や読書をしないと回答した児童が多く、家庭学習の時間が短い傾向にあります。勉強の仕方がわからない、計画が立てられないという課題に対し、4月に配布した家庭学習の手引きを中心にご家庭とも連携しながら「自ら学ぶ習慣」の定着を支援します。まずは自ら学ぶ時間を生み出すため、児童の興味関心を大切にした家庭学習（自学ノート）の方法を提案するなどし、家庭学習への意欲を高めていきます。また、どんな学習習慣を身につければよいか、クラスで児童と話し合い、見直しを進めていきます。

3　学力向上、課題解決のための取組

本校では、互いを尊重し、子どもたちが自分で考えて行動する力を伸ばし、安心してチャレンジできるように、ご家庭や地域の方々と手を携えて日々全力で関わっています。集団で学ぶ場を存分に活かし、友だちと一緒に取り組む喜びを感じてもらいながら、共に高め合う学習を通じて課題解決力や探究力を育てていきます。また、学習の題材を地域に広げ、ふるさとに愛着を持って学び続ける心を育てていきます。「学びは楽しい」「わかるって面白い」「できると自信になる」という気持ちを大切にし、児童の意欲を引き出しながら、自分の将来を自分で広げていけるような強みや能力を育んでまいります。保護者の皆様の温かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。